

【授業科目】在宅看護学概論

Introduction to Home care Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
多次 淳一郎	2年次前期	必修	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対するフィードバック 方法	授業概要 / 本科目は、人々の「暮らし」を国際生活機能分類 (ICF) モデルの構成概念である「健康」「環境」との関連から捉える意義とみかたを学ぶ。また、地域で暮らす人々を支える看護や医療保健福祉のしくみについて学ぶ。講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材を用いて行い、一部の単元でゲストスピーカーによる講義を行う。課題に対するフィードバック方法 / 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①暮らしに着目することの意義を説明できる。 ②暮らしをみる基盤となる理論・モデルの概要を説明できる。 ③暮らしが成り立つよう支える制度、社会資源、看護活動の概要を説明できる。							
時間外学習 に必要な 内容・時間	課題 ①地域に根づく文化、風習に関する資料を読み、それらが人々の暮らしや健康にどのように影響しているか考察し、レポートにまとめる。(第1回指示、第4回提出) ②自身の暮らす地域について、特定の対象(要介護高齢者、医療的ケア児、等)を支えるケアシステムをエコマップとしてまとめる。(第7回終了時指示、第8回終了時提出) 事前・事後学習 事前学習：教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく(各30分) 事後学習：同日の学習内容をふりかえり、整理しておく(各30分)							
授業計画	第1回 オリエンテーション “暮らし”を支える、ということ “暮らし”をみる意義と視点 【課題①指示】 第2回 暮らしを理解する① 環境・文化からみた暮らしの多様さ 第3回 暮らしを理解する② 健康が暮らしに与える影響 第4回 暮らしを支える看護① 対象となる人々の特徴【課題①提出】 第5回 暮らしを支える看護② 自立して暮らす、ということ(ゲスト) 第6回 暮らしを支える看護③ さまざまな看護実践の場 第7回 暮らしを支えるしくみ① 地域ケアシステム、フォーマルな支援 【課題②指示】 第8回 暮らしを支えるしくみ② インフォーマルな支援、まとめ 【課題②提出】							多次  多次  多次  多次  多次  多次  多次  多次
評価方法 評価基準	課題 40% (①②各20%)、試験 60%で総合的に評価する。							
教科書	・河原加代子, 他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論1』(第6版1刷) 医学書院 ・河原加代子, 他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論2』(第6版1刷) 医学書院			参考書等	講義の中で適宜紹介			
学生への 助言等	本科目を通じて、“暮らし”を改めて意識化し、それに着目し、捉えることの意義を理解し、その基礎的視点を習得されることを期待します。 本科目での学びは在宅看護学関連の科目のみならず、臨床看護においても基盤となる考え方・知識になりますので、常に他科目や実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。							